

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課		
基本構想	-	重点的方針	-		
分野別方針	福祉・健康・保健	実施計画事業	社会福祉関係事業 (No.1)		
予算等事業名	社会福祉関係事業				
目的	地域福祉を総合的・計画的に推進して、社会福祉の理念の達成を目指すため、地域福祉計画を策定する。また、町の福祉施策を進める上で重要となる町社会福祉協議会とのより一層の協力・連携を深めることで、福祉サービスの充実を図り、町と社協の役割分担のもと、事業の実施や助成を行う。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉計画の策定 ・町社協との定例会合の実施 ・町社協補助金の支出 				
根拠法令・条例等	社会福祉法第58条第1項 二宮町社会福祉法人の助成に関する条例				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		町からの委託事業や補助事業について、町で実施できること、社会福祉協議会で行うことが望ましいことを精査し、サービスを低下させないよう事業を推進していく。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		地域福祉施策を展開するにあたって連携の方法等を改善しながら事業を進めていく。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 社会福祉協議会は、町の地域福祉を推進する上での核となる事業を実施している。今後の社会の方向性としてより充実した地域福祉が必要となることから、効率的なサービスを念頭に今後も継続して実施していく。				

総合評価

実績	地域福祉を総合的・計画的に推進して、社会福祉の理念の達成を目指すため、地域福祉計画を策定した。また、町社会福祉協議会とのより一層の協力・連携を深めることで、福祉サービスの充実を図るため、補助金を支出した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(28年度)目標値	17,303,000円		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	計画策定に係る課題の整理、町社協との定例会合実施、町社協補助金	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		17,303	17,211				
財源内訳	一般財源		15,587				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他		1,624				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町社会福祉協議会に助成し、連携・協力することにより、地域に根ざし充実した福祉サービスを提供することができる。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町より必要な部分への助成をするにより、町が意図する福祉施策推進を図ることができる。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 地域を支える町民の誰もが地域の福祉活動に参加できる仕組みづくり、地域福祉の中心となる人材の育成など、地域の福祉力の向上に繋がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 町からの委託事業や補助事業について、町で実施できること、社会福祉協議会で行うことが望ましいことを精査し、サービスを低下させないよう事業を推進していく。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 社会福祉協議会は、町の地域福祉を推進する上での核となる事業を実施している。今後の社会の方向性としてより充実した地域福祉が必要となることから、効率的なサービスを念頭に今後も継続して実施していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	地域福祉計画の進行管理。 社会福祉協議会若手正職員の育成。 町委託事業や補助事業の精査。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止			
理由	地域福祉の担い手の一翼である社会福祉協議会との連携は、今後も必要不可欠である。		
今後の方向性	今後ますます加速する少子高齢化等に向けた地域福祉施策を展開するにあたって連携の方法等を改善しながら事業を進めていく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課					
基本構想	-		重点的方針	-				
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	福祉サービス情報一元化事業(No.2)				
予算等事業名	福祉サービス情報一元化事業							
目的	健康福祉部各課における福祉サービスの情報提供を一元化することで、利用者の情報収集における負担軽減を図る。							
内容	・各課情報集約・チラシ作成・配布							
根拠法令・条例等	-							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	検討中。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	※予算付けがなされていない事業			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	現在、検討中のため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		C
	【説明】 福祉サービスを利用しやすくする努力は常に行っていく必要がある。関係機関と連携し内容を検討していく。		

総合評価

実績					
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(28年度)目標値	0円			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	各種サービスの一元化された情報チラシの発行	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	B
	【説明】 検討中。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 検討中。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	C
	【説明】 検討中。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	C
	【説明】 検討中。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	C
	【説明】 検討中。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	検討中。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	福祉サービスを利用しやすくする努力は常に行っていく必要がある。
今後の方向性	関係各課と連携し内容を検討していく。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり		
分野別方針	福祉・健康・保健	実施計画事業	地域福祉支援事業 (No.3)		
予算等事業名	民生委員児童委員経費				
目的	町社協との協力・連携及び継続的に支援していくことで、傘下にある地区社協部会やボランティア組織を間接的に支援し、また、町と地域とのパイプ役となる民生委員・児童委員やその他各福祉団体を支援することで、地域福祉の充実を図る。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会や役員会の運営 ・補助金支出 				
根拠法令・条例等	二宮町補助金交付規則第3条第2号				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		費用は最小限に抑えられている。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		地域福祉の推進は継続して実施する中で成果が図られるものであり、ボランティアである民生委員児童委員がより活動しやすい環境づくりにむけ、引き続き実施していく。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 地域福祉の充実において重要な位置づけとなる民生委員児童委員に対する支援援助は欠かせない。				

総合評価

実績	地域福祉の充実において重要な位置づけとなる民生委員児童委員に対し補助金を支出した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(28年度)目標値	4,517,000円			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	各種福祉団体との定例会合実施、各団体への補助金	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		4,517	4,487				
財源内訳	一般財源		1,446				
	国庫支出金						
	県支出金		3,041				
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 民生委員児童委員は、行政機関等と町民とのパイプ役として町の地域福祉の向上と円滑化を図っている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 これからより地域福祉は向上しなければならないため、町が主導となり推進していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 研修会の開催により民生委員児童委員の資質の向上を図っており、各地域での活動に活かされている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 費用は最小限に抑えられている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 地域福祉の推進は継続して実施する中で成果が図られるものであり、ボランティアである民生委員児童委員がより活動しやすい環境づくりにむけ、引き続き実施していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	民生委員児童委員の資質向上と担い手の発掘。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	地域福祉の充実において重要な位置づけとなる民生委員児童委員に対する支援援助は欠かせない。		
今後の方向性	引き続き委員の資質向上等を図りながら、事業を推進していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり		
分野別方針	福祉・健康・保健	実施計画事業	地域福祉支援事業 (No.3)		
予算等事業名	団体育成事業				
目的	町社協との協力・連携及び継続的に支援していくことで、傘下にある地区社協部会やボランティア組織を間接的に支援し、また、町と地域とのパイプ役となる民生委員・児童委員やその他各福祉団体を支援することで、地域福祉の充実を図る。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的会合の実施 ・補助金支出 				
根拠法令・条例等	二宮町補助金交付規則第3条第2号				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		各団体とも高齢化により人員が減少しつつあり、予算の見直しが必要となっている。町補助金においても精査する必要がある。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		地域福祉の推進は継続して実施すること成果が上がるものであり、各団体がより活動しやすい環境づくりにむけ、引き続き実施していく。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 引き続き各団体の活動における資質の向上等を図りながら、事業を推進していく。				

総合評価

実績	町補助金を交付した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(28年度)目標値	576,000円			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	各種福祉団体との定例会合実施、各団体への補助金	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		576	567				
財源内訳	一般財源		567				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 保護司、人権擁護委員、弁護士会、遺族会の活動支援及び各種会議への費用負担を行い地域福祉の充実を図っている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 きめ細かな地域福祉の充実を図るため、町が主導となり推進していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 各団体を支援し、活動が円滑に遂行されることにより、安全安心なまちづくりや住民生活の資質向上に寄与されている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 補助金の活用先は、関係機関等への負担金の性質をもつものも含むものであり、費用は最小限に抑えられている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 地域福祉の推進は継続して実施すること成果が上がるものであり、各団体がより活動しやすい環境づくりにむけ、引き続き実施していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	保護司、人権擁護委員、遺族会については資質向上と担い手の発掘が当面の課題である。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	地域福祉において欠かせない各種団体への支援は継続して行く必要がある。		
今後の方向性	引き続き各団体の活動における資質の向上等を図りながら、事業を推進していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり		
分野別方針	福祉・健康・保健	実施計画事業	介護サービス推進事業 (No.8)		
予算等事業名	介護保険居宅サービス支援事業				
目的	介護保険サービスの適正な認定・給付・賦課徴収を行う。また低所得者への軽減補助を行う。				
内容	・扶助費の支給				
根拠法令・条例等	介護保険法 高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		介護者、低所得者等への扶助のため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		対象者人数が変動するため限定ができない。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 介護者、低所得者への負担軽減を図っている。				

総合評価

実績	居宅サービスを利用した低所得者に対して利用料の25%の軽減を行った。2名。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	給付率(%), 件数, 徴収率				
中期(28年度)目標値	5名		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	予算件数	
	22				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費	141	22				
財源内訳	一般財源	126	22			
	国庫支出金	0	0			
	県支出金	15	0			
	その他	0	0			

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 低所得者への軽減措置を行うためにも公費を投入する必要がある。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 低所得者への軽減措置を行うため、町が主体となって実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 該当者数が減のため実績には結びつかなかった。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 扶助費であるため費用負担は必須である。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 低所得者向けの事業であるため、今後も推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も同様に継続して実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]							
<input checked="" type="checkbox"/>	① 現状維持	<input type="checkbox"/>	② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/>	③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/>	④ 廃止
理由	介護者、低所得者への負担軽減を図っている。						
今後の方向性	今後も同様に継続して実施していく。						

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり				
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	介護サービス推進事業(No.8)				
予算等事業名	介護サービス等諸費給付事業							
目的	介護保険サービスの適正な認定・給付・賦課徴収を行う。また低所得者への軽減補助を行う。							
内容	・保険給付							
根拠法令・条例等	介護保険法、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		介護サービスの利用に対する給付事業のため。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		介護サービスの利用に対する給付事業のため。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 介護サービスの利用に対する給付事業のため。							

総合評価

実績	要介護1以上の方に対して、居宅及び施設介護サービスを実施し、福祉用具購入及び住宅改修などの補助を実施した。							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)	給付率(%)、件数、徴収率							
中期(28年度)目標値	-							【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	複数のサービスが計上されているため、目標値を定めることが出来ない。				
	1,775,727							

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,786,503	1,775,727				
財源内訳	一般財源	0	0				
	国庫支出金	358,365	358,365				
	県支出金	260,359	260,359				
	その他	1,167,779	1,157,003				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 介護サービスに関わる経費であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 介護サービスに関わる経費であるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 介護サービスに関わる経費であるため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 介護サービスに関わる経費であるため費用負担は必須である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 必要不可欠な経費であるため、引き続き事業を推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も同様に継続して実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	介護サービスの利用に対する給付事業のため		
今後の方向性	今後も同様に継続して実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課	
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	介護サービス推進事業(No.8)
予算等事業名	介護予防サービス等諸費給付事業			
目的	介護保険サービスの適正な認定・給付・賦課徴収を行う。また低所得者への軽減補助を行う。			
内容	・保険給付			
根拠法令・条例等	介護保険法			
体制	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 一部委託あり
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 計画どおりに進捗している		② 計画より遅れている	③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 削減は困難	
理由		介護サービスの利用に対する給付事業のため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 効率化は困難	
理由		介護サービスの利用に対する給付事業のため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 介護サービスの利用に対する給付事業のため。			

総合評価

実績	要支援1, 2の方に対し、居宅及び施設介護サービスを実施し、福祉用具購入及び住宅改修などの補助を実施した。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	給付率(%), 件数, 徴収率			
中期(28年度)目標値	-			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	複数のサービスが計上されているため、目標値を定めることが出来ない。
	134,006			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		135,058	134,006				
財源内訳	一般財源	0	0				
	国庫支出金	27,092	27,092				
	県支出金	19,683	19,683				
	その他	88,283	87,231				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 介護予防サービスに関わる経費であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 介護予防サービスに関わる経費であるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 介護予防サービスに関わる経費であるため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 介護予防サービスに関わる経費であるため費用負担は必須である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 必要不可欠な経費であるため、引き続き事業を推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も同様に継続して実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	介護サービスの利用に対する給付事業のため。		
今後の方向性	今後も同様に継続して実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課	
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	介護サービス推進事業(No.8)
予算等事業名	高額介護サービス費支給事業			
目的	介護保険サービスの適正な認定・給付・賦課徴収を行う。また低所得者への軽減補助を行う。			
内容	・保険給付			
根拠法令・条例等	介護保険法			
体制	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 一部委託あり
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 計画どおりに進捗している		② 計画より遅れている	③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 削減は困難	
理由		法に基づく給付事業のため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 効率化は困難	
理由		法に基づく給付事業のため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 法に基づく給付事業のため。			

総合評価

実績	高額サービスに該当した要支援及び要介護認定した方に対し、高額分を返還した。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	給付率(%)、件数、徴収率			
中期(28年度)目標値	-			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	複数サービスを利用し、一定額以上になった場合発生するため、目標値を定めることが出来ない。
	43,511			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		45,631	43,511				
財源内訳	一般財源	0	0				
	国庫支出金	9,153	9,153				
	県支出金	6,650	6,650				
	その他	29,828	27,708				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 高額介護サービスに関わる経費であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 高額介護サービスに関わる経費であるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 高額介護サービスに関わる経費であるため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 高額介護サービスに関わる経費であるため費用負担は必須である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 必要不可欠な経費であるため、引き続き事業を推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も同様に継続して実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	法に基づく給付事業のため。		
今後の方向性	今後も同様に継続して実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課	
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	介護サービス推進事業(No.8)
予算等事業名	特定入所者介護サービス費給付事業			
目的	介護保険サービスの適正な認定・給付・賦課徴収を行う。また低所得者への軽減補助を行う。			
内容	・保険給付			
根拠法令・条例等	介護保険法			
体制	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 一部委託あり
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 計画どおりに進捗している		② 計画より遅れている	③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 削減は困難	
理由		介護サービスの利用に対する給付事業のため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 効率化は困難	
理由		介護サービスの利用に対する給付事業のため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 介護サービスの利用に対する給付事業のため。			

総合評価

実績	施設入所者で収入が少ない世帯に対し、食費や居住費の軽減を行った。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	給付率(%), 件数, 徴収率			
中期(28年度)目標値	-			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	施設入所者で収入が少ない世帯向けのサービスであるため、目標が立てられない。
	56,587			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		59,406	56,587				
財源内訳	一般財源	0	0				
	国庫支出金	11,917	11,917				
	県支出金	8,658	8,658				
	その他	38,831	36,012				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 特定入所者介護サービスに関わる経費であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 特定入所者介護サービスに関わる経費であるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 特定入所者介護サービスに関わる経費であるため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 特定入所者介護サービスに関わる経費であるため費用負担は必須である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 必要不可欠な経費であるため、引き続き事業を推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も同様に継続して実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	介護サービスの利用に対する給付事業のため。		
今後の方向性	今後も同様に継続して実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点の方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり				
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	介護サービス推進事業(No.8)				
予算等事業名	高額医療合算介護サービス費支給事業							
目的	介護保険サービスの適正な認定・給付・賦課徴収を行う。また低所得者への軽減補助を行う。							
内容	・保険給付							
根拠法令・条例等	介護保険法							
体制	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 計画どおりに進捗している		② 計画より遅れている	③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 削減は困難	
理由		後期高齢者の介護保険、医療の利用状況により変動するため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 効率化は困難	
理由		介護サービスの利用に対する給付事業のため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 法に基づく制度のため。			

総合評価

実績	高額医療に該当した要支援及び要介護認定した方に対し、高額分を返還した。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	給付率(%)、件数、徴収率			
中期(28年度)目標値	-			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	複数の医療保険を利用し、一定額以上になった場合発生するため、目標値を定めることが出来ない。
	7,520			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		7,990	7,520				
財源内訳	一般財源	0	0				
	国庫支出金	1,603	1,603				
	県支出金	1,164	1,164				
	その他	5,223	4,753				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 高額医療合算介護サービスに関わる経費であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 高額医療合算介護サービスに関わる経費であるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 高額医療合算介護サービスに関わる経費であるため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 高額医療合算介護サービスに関わる経費であるため費用負担は必須である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 必要不可欠な経費であるため、引き続き事業を推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も同様に継続して実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	法に基づく制度のため。		
今後の方向性	今後も同様に継続して実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点の方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり				
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	介護サービス推進事業(No.8)				
予算等事業名	介護認定調査等事業							
目的	介護保険サービスの適正な認定・給付・賦課徴収を行う。また低所得者への軽減補助を行う。							
内容	・認定調査実施							
根拠法令・条例等	介護保険法、介護保険条例							
体制	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 計画どおりに進捗している		② 計画より遅れている	③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 削減は困難	
理由		介護度認定のための基礎調査のため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 効率化は困難	
理由		新規、更新、区分変更など介護度を判定するための基礎調査のため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 介護度を判定するための基礎調査のため。			

総合評価

実績	非常勤職員及び委託にて認定調査を実施した。また、医師意見書の依頼を行った。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	給付率(%）、件数、徴収率			
中期(28年度)目標値	-			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	認定調査に関わる報酬、旅費、郵送料、委託料であるため目標値を設定することはできない。
	13,795			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		13,965	13,795				
財源内訳	一般財源	13,965	13,795				
	国庫支出金	0	0				
	県支出金	0	0				
	その他	0	0				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 認定調査表に関わる費用のため、公費で実施する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 介護度に関わる調査費用であるため、町が主体として行わなければならない。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 例年発生する費用であり成果は上がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 職員で対応できるものは、対応し委託料等削減をしている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 必要不可欠な経費であるため、引き続き事業を推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	高齢化が進んでいるため、年々調査表の件数も増加している。そのため、現行の非常勤職員数では、まかないきれない。また、研修を受けなければ認定調査を行うことが出来ないため、職員が迅速に対応することが出来ないのも課題である。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	介護度を判定するための基礎調査のため。		
今後の方向性	今後も同様に継続して実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり				
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	介護サービス推進事業(No.8)				
予算等事業名	介護認定審査会運営事業							
目的	介護保険サービスの適正な認定・給付・賦課徴収を行う。また低所得者への軽減補助を行う。							
内容	・認定審査会開催							
根拠法令・条例等	介護保険法、介護保険条例							
体制	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 計画どおりに進捗している		② 計画より遅れている	③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 削減は困難	
理由		申請から認定までの期間が定められているため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 効率化は困難	
理由		申請から認定までの流れが定められているため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 介護度認定の審査委員会のため。			

総合評価

実績	48回(毎週金曜日、年末年始、祭日、お盆期間中は除く)			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	給付率(%)、件数、徴収率			
中期(28年度)目標値	48回		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成28年度の審査会開催予定数
	5,392			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		5,808	5,392				
財源内訳	一般財源	5,808	5,392				
	国庫支出金	0	0				
	県支出金	0	0				
	その他	0	0				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 審査会委員に対する報酬であるため公費で行わなければならない。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 審査会を実施しているのが町であるため主体で行わなければならない。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 予定通り開催できたため、成果は上がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 審査会委員に対する報酬であるため費用が発生する。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 必要不可欠な経費であるため、引き続き事業を推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	高齢化が進んでいるため、年々審査会にかかる件数が増加している。そのため、現状の週一回では間に合わないことも想定されるため、臨時で審査会を開催することも検討する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	介護度認定の審査委員会のため。		
今後の方向性	今後も同様に継続して実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり				
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	介護サービス推進事業(No.8)				
予算等事業名	介護保険料賦課徴収事業							
目的	介護保険サービスの適正な認定・給付・賦課徴収を行う。また低所得者への軽減補助を行う。							
内容	・賦課徴収							
根拠法令・条例等	介護保険法、介護保険条例							
体制	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 計画どおりに進捗している		② 計画より遅れている	③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 削減は困難	
理由		保険料の賦課、徴収に係る事業のため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 効率化は困難	
理由		保険料の賦課、徴収に係る事業のため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 法に基づく保険料の賦課徴収に係る事業のため。			

総合評価

実績	介護保険料の納入通知書を印刷し、窓付き封筒で送付した。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	給付率(%）、件数、徴収率			
中期(28年度)目標値	-			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	事務費であるため目標値の根拠を定めることは出来ない。
	1,942			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,978	1,942				
財源内訳	一般財源	1,978	1,942				
	国庫支出金	0	0				
	県支出金	0	0				
	その他	0	0				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 納入通知書の印刷、郵送料等の経費であるため公費で実施するのは妥当。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 保険料の納付に関わる事業のため、町が主体的に実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 実績についてもほぼ例年通りであり十分成果が上がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 切手購入は妥当性などを精査して削減している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 必要不可欠な経費であるため、引き続き事業を推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も同様に継続して実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	法に基づく保険料の賦課徴収に係る事業のため。		
今後の方向性	今後も同様に継続して実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり				
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	介護サービス推進事業(No.8)				
予算等事業名	介護保険運営協議会事業							
目的	介護保険サービスの適正な認定・給付・賦課徴収を行う。また低所得者への軽減補助を行う。							
内容	・運営協議会開催							
根拠法令・条例等	介護保険法、介護保険条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		介護保険運用に関する諮問委員会のため。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		必要に応じて協議会の開催を図る。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 介護保険法で定める協議会のため。							

総合評価

実績	1回						
中間評価との相違点							
事業指標(数値指標)	給付率(%）、件数、徴収率						
中期(28年度)目標値	4回			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	予算算定上の実施回数			
	69						

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		323	69				
財源内訳	一般財源	323	69				
	国庫支出金	0	0				
	県支出金	0	0				
	その他	0	0				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 条例に定められた協議会であるため公費を投入する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 介護保険の運営に関する協議会であるため、町が主体となる。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 大きな法改正や計画の策定がなかったため、回数を削減したため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 大きな法改正や計画の策定がなかったため、回数を削減し、費用を減額した。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 介護保険の運営するにあたり必要な協議会であるため、引き続き推進する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	平成29年度は第7期介護保険事業計画を策定する必要があるため、4回開催する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	介護保険法で定める協議会のため。		
今後の方向性	平成29年度は第7期介護保険事業計画を策定する必要があるため、4回開催する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点の方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり				
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	介護サービス推進事業(No.8)				
予算等事業名	介護保険運営事業							
目的	介護保険サービスの適正な認定・給付・賦課徴収を行う。また低所得者への軽減補助を行う。							
内容	・介護保険制度運営							
根拠法令・条例等	介護保険法、介護保険条例							
体制	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	年々高齢者人口が増加していることから削減は困難と思われる。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	法に基づく制度の運用のため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 介護保険法に基づく制度運用のため現状維持が妥当と思われる。		

総合評価

実績	介護システムのシステム改修及び各種負担金を支払った。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	給付率(%), 件数, 徴収率		
中期(28年度)目標値	-		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	3156		
			事務費であるため目標値の根拠を定めることは出来ない。

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		4,081	3,156				
財源内訳	一般財源	2,506	2,352				
	国庫支出金	330	330				
	県支出金	0	0				
	その他	1,245	474				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 介護保険に係る事務経費のため公費を投入することは妥当。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 介護保険に係る事務経費のため町が主体でなければならない。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 実績についてもほぼ例年通りであり十分成果が上がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 旅費等については庁用車で行かれる場所は庁用車で行き削減をしている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 必要不可欠な経費であるため、引き続き事業を推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も同様に継続して実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	介護保険法に基づく制度運用のため現状維持が妥当と思われる。		
今後の方向性	今後も同様に継続して実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課	
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	介護サービス推進事業(No.8)
予算等事業名	介護保険趣旨普及事業			
目的	介護保険サービスの適正な認定・給付・賦課徴収を行う。また低所得者への軽減補助を行う。			
内容	・介護保険の制度普及			
根拠法令・条例等	介護保険法			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		介護保険法の改正、保険料の改訂等によりより一層の周知が必要のため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		高齢者への周知を図るたパンフレット等制度の分かりやす細やかな準備が必要と思われる。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			B
	【説明】 高齢者に分かりやすいパンフレット等周知資料の作成が必要。			

総合評価

実績	パンフレットの作成(新規加入者用・制度周知用・保険料通知用)			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	給付率(%), 件数, 徴収率			
中期(28年度)目標値	3種類			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	予算算定におけるパンフレット種類数
	305			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		383	305				
財源内訳	一般財源	383	305				
	国庫支出金	0	0				
	県支出金	0	0				
	その他	0	0				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 制度の周知、新規者への説明として使用するため公費を投入する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 窓口や郵送時に使用するため町が主体で実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 わかりやすく制度を説明できるため、成果は上がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 制度が複雑多岐にわたるため、わかりやすいパンフレットを作成するためには費用が発生する。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 必要不可欠な経費であるため、引き続き事業を推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も同様に継続して実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	高齢者に分かりやすいパンフレット等周知資料の作成が必要。		
今後の方向性	今後も同様に継続して実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり				
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	介護サービス推進事業(No.8)				
予算等事業名	高齢者支援推進経費							
目的	介護保険サービスの適正な認定・給付・賦課徴収を行う。また低所得者への軽減補助を行う。							
内容	・介護資格の取得経費、介護事業所への就労を支援するための補助金の交付							
根拠法令・条例等	介護人材育成経費補助金実施要綱							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		補助金の利用状況等に応じて、事業の見直しを検討。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		補助金の利用状況等に応じて、事業の見直しを検討。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							B
	【説明】 補助金の妥当性、有効性は良いが利用効率が悪いので、啓発等の一部改善が必要。							

総合評価

実績	3名							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)	給付率(%）、件数、徴収率							
中期(28年度)目標値	6名			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	予算件数				
	80							

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		300	80				
財源内訳	一般財源	300	80				
	国庫支出金	0	0				
	県支出金	0	0				
	その他	0	0				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 資格取得又は就労に関わる補助事業であるため公費を投入することは妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 資格取得及び町内の就労を推進する立場にいたるため、主体的に実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 目標件数には届かないものの実績があるため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 資格取得又は就労に関わる補助事業であるため費用負担は必須である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 実績を上げるために、広報活動などのPRを行い、事業の周知を行いながら推進する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	広報活動などのPRを行い、事業の周知を行う。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	補助金の妥当性、有効性は良いが利用効率が悪いので、啓発等の一部改善が必要。		
今後の方向性	広報活動などのPRを行い、事業の周知を行う。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課					
基本構想	-		重点的方針	-				
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	障がい福祉情報提供推進事業(No.9)				
予算等事業名	障害福祉サービスの普及・啓発							
目的	障がい者が安心して暮らすことの出来る町づくりを進めるため、障害福祉サービス等に関する情報提供の促進を図る。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> パンフレット等の配布やポスターの掲示 HP等による広報の実施 							
根拠法令・条例等	-							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	制度の普及・啓発については、費用をかけずホームページやお知らせ版などにより周知をしているため、特に数値目標は定めていない。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	※予算付けがなされていない事業				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	周知方法について内容を工夫するなど検討し、結果として効率化を図れるようにしていく。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 費用以外でも削減できるところを検討し、町民にわかりやすい障害福祉制度の普及・啓発につとめていく。				

総合評価

実績	障害福祉サービス等に関する情報提供の促進を図った。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(28年度)目標値	0円		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	特になし	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	C
	【説明】 現在、窓口での職員対応や町広報・ホームページ又は各団体が発行する制度案内等を活用することにより、制度や事業の周知等を実施している。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 事業者や団体等とともに、町が主体となり官民が連携して事業を実施していくことは必要である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 現時点では費用を予算計上していないが、広報やホームページ、団体等の配布物などで制度等の周知をしており一定の成果を上げている。今後は更にきめ細かなサービスの提供という意味で検討していく必要がある。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 現時点では、費用を予算化していない。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 現状では予算化せずに広報等を活用し、制度の普及・啓発活動を行っている。今後は更に内容や周知方法の見直しを行い、障害者やその家族ならびに町民への周知が徹底されるように検討していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後においては、町広報やホームページの内容を充実させて、制度の周知徹底を図っていく。また、各自治体や関係団体等と連携・協力していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	更に当事者等の声を聞き改善し、より良いサービス提供が出来るようにする必要がある。
今後の方向性	各種福祉団体等にも協力を求めながら、事業を進めていく。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課	
基本構想	-		重点的方針	-
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	障がい者地域生活支援事業 (No.10)
予算等事業名	自立支援給付事業			
目的	障害者総合支援法に基づき、身体・知的・精神障害児者のサービス利用希望により、各種サービスを提供し、障害児者が利用したサービスの費用に対して、給付費を町が支払う。			
内容	・支援継続			
根拠法令・条例等	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/> ② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施	
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 削減は困難		
理由	各種サービスの利用者は増加傾向にあるため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 効率化は困難		
理由	本事業の大部分は、報酬等の基準額が国で決められているため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 障害者総合支援法による必須事業であり、障害者の生活の観点からも欠かせない事業と考えられる。	

総合評価

実績	障害者総合支援法に基づき、身体・知的・精神障害児者のサービス利用希望により、各種サービスを提供し、障害児者が利用したサービスの費用に対して、給付費を町が支払った。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)				
中期(28年度)目標値				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費							
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 障害者総合支援法により、必須。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 障害者総合支援法により、必須。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 障害者の生活、社会参加等の支援を行った。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 本事業の大部分は国により基準額が決められている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 障害者総合支援法により、今後も必須事業となる。障害者の生活の観点からも欠かせない事業と考えられる。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	平成27年度から、サービス利用に当たって「サービス等利用計画」の作成が必須になることから、事業所等が不足するなか、計画作成が急務となっている。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	障がい者の生活を守り、自立更生を促進するうえで欠かせない事業である。		
今後の方向性	制度が変遷していくなか、適切な対応を図りながら事業を進めていく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課		
基本構想	-		重点的方針	-	
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	在宅障がい者支援事業(No.11)	
予算等事業名	在宅障がい者援護事業				
目的	在宅の身体・知的・精神障害児者に各種の補助事業を展開することにより、自立更生の一助に努め、併せて障害者とその家族の経済的軽減を図る。				
内容	・支援継続				
根拠法令・条例等	障害者総合支援法等				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		障害者福祉手当など一部の事業においては、制度改正を繰り返しており、条例制定時の目的から薄れつつある。このため、事業の見直しを検討し、経費削減を図っていく。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		障害者福祉手当など一部の事業においては、制度改正を繰り返しており、条例制定時の目的から薄れつつある。このため、事業の見直しを検討し、経費削減を図っていく。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 事業によっては、目的が時代にそぐわないところがあるため、現状を踏まえ町民のニーズを反映し、関係各課・団体等と連携を図りながら事業を見直しや推進を図っていく。				

総合評価

実績	在宅の身体・知的・精神障害児者に各種の補助事業を展開することにより、自立更生の一助に努め、併せて障害者とその家族の経済的軽減を図った。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(28年度)目標値				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費							
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	B
	【説明】 当事業は、住宅障害者に対する事業のあり、自立更生の一切として、また障害者としての家族の経済的負担を軽減することが目的である。事業を展開し、目的を達成するため公費投入は妥当であるが、将来的に事業を維持していくには要件改正や一部負担を求めるなどの方策を検討することも必要となっている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 当事業については、町単独事業によるものが多い。このため町が主体となって事業を展開していく必要があるが、一部の事業については委託や負担金方式をとっているものがある。こうした事業については、業者や各自治体間で連携・協力していきながら事業を展開していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 在宅障害者における経済的負担を軽減する事業であるため、利用率は高く、障害者やその家族に対しては有益である。しかしながら十分に行き届いていない面もあることから、周知等を含めて検討していく余地はある。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 一部の事業については要綱改正をしたことにより一定の効果をあげているが、さらに効率良く、真に必要なサービス展開が行えるよう方策等を検討していく必要はある。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 在宅障害者の経済的負担を軽減する事業であり、町単独事業によるものが多いが、利用率は高く、障害者やその家族に対しては有益である。このため、事業自体においては一定の効果はあるが、さらに有効な支出が出来るよう方策を検討していく必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	当該事業においては、町単独事業によるものが多いことから、地域の特性に合わせ、町民のニーズを事業に反映させていく必要がある。また、補助金や負担金等については各自治体や団体と連携をとりながら内容の見直しを図っていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	障がい者の生活を守り、自立更生を促進するうえで欠かせない事業であるが、実情に合わせて事業内容を検討していく必要がある。
今後の方向性	国の制度の変遷に対応しつつ、地域特性や障がい者の実情に合わせて事業内容を検討しながら進めていく。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課					
基本構想	-		重点的方針	-				
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	在宅障がい者支援事業(No.11)				
予算等事業名	障がい者医療費給付補助事業							
目的	在宅の身体・知的・精神障害児者に各種の補助事業を展開することにより、自立更生の一助に努め、併せて障害者とその家族の経済的軽減を図る。							
内容	・補助継続							
根拠法令・条例等	二宮町障害者の医療費の助成に関する条例、二宮町障害者の医療費の助成に関する規則、重度障害者医療費給付補助事業補助金交付要綱							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		県や近隣市町村の動向に注視しながら、検討していく。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		制度改正して4年弱であるため、さらなる事業の効率化を図るにはもう少し時間が必要。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							B
	【説明】 助成対象者の変更・軽度障害者の現物給付化により、一定の効果が現れているが、制度維持のため、今後も制度内容を検討していく必要がある。							

総合評価

実績	在宅の身体・知的・精神障害児者に各種の補助事業を展開することにより、自立更生の一助に努め、併せて障害者とその家族の経済的軽減を図った。							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)								
中期(28年度)目標値				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度					

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費							
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 障害者に対して医療費を一部助成することにより、経済的負担を軽減するとともに、更生を助長し、福祉の増進を図ることができるため妥当な事業といえる。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 仲余川県内では至中町村が障害者医療費の助成を行っているため(対象内容や寺社等は中町村によって異なる)町内に居住する障害者医療費の助成は町が主体となって実施すべきである	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 医療費補助について、障害者制度条内時に医療費補助の説明を行い補助を提供している。しかしながら補助対象者の一部(軽度)へ制度の周知が不十分な面もあることから、今後方策を検討する必要がある	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 補助内容としては、医療費に係る保険適用分すべてを補助対象としているため、現時点では費用はかかるが、対象要件(年齢・等級)を平成24年10月より改正したため、今後は補助対象者の増加は緩和され費用面においても抑制できる見込みであるが、一部負担金や所得制限などさらなる検討は必要である	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 在宅障害者の経済的負担を軽減する事業であり、町単独事業によるものが多いが、利用率は高く、障害者やその家族に対しては有益である。このため、事業自体は対象者においては一定の効果はあるが、さらに効率よく費用をかけない方策を検討していく必要がある。	
今後の方針(課題・意見等を箇条書き)	当該事業においては、町単独事業によるものが多く、県内の自治体でも同様の事業を展開しているところが多い。今後の事業維持や見直しにおいては、県内の動向を見ながら、かつ町民のニーズに応じた形で事業に反映させていく必要がある。また、補助金や負担金等については各自治体や団体と連携をとりながら内容の見直しを図っていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	障がい者の生活を守り、自立更生への一助とするため今後とも必要な事業である。		
今後の方向性	今後も制度維持のための方策を検討しながら事業を進めていく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課					
基本構想	-		重点的方針	-				
分野別方針	福祉・健康・保健		実施計画事業	在宅障がい者支援事業(No.11)				
予算等事業名	障がい者緊急時対応経費							
目的	在宅の身体・知的・精神障害児者に各種の補助事業を展開することにより、自立更生の一助に努め、併せて障害者とその家族の経済的軽減を図る。							
内容	・対応							
根拠法令・条例等	二宮町成年後見制度利用支援事業実施要綱							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		判断能力が十分でない方への権利擁護事業である為、経費削減は難しいが、その必要性については十分協議を行った上で実施するようにしている。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		個別相談から発生する事業であり、一律した対応は困難。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 当制度の活用については、個別相談から十分にその必要性について協議し、真に必要な方に活用できるよう対応。現状は維持しつつ、当制度の普及啓発にも努めていく。				

総合評価

実績					
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(28年度)目標値				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費							
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 国補助事業となっており、特に身寄りのない障害者の権利擁護としては必要な事業といえる。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 制度の必要性の有無については様々な関係者を求めに中じ、その妥当性や当制度以外の解決方法がない場合に活用する為、相談業務関係の核となる町が主体となる事が妥当といえる。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 制度活用の必要性については、個々の状況を十分把握した上で実施するようにしている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 個別相談や関係者会議にて必要性の確認を行っており、無暗に利用に繋げる事が無いように対応している。複数回に渡り相談を重ねていく中で、その妥当性や、当制度以外の解決方法がない場合に活用するようにしている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 成年後見利用支援事業を利用することにより、特に身寄りのない障害者の権利擁護等、福祉の増進を図ることができている。当制度活用においては、相談を繰り返すことでその必要性を明らかにし、妥当性を確認した上で、実施につなげる体制は今後も維持していくものとする。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	財政面における支出を抑制する為、活動報酬の発生しない市民後見を養成していく動きもあり、今後の県や他市町の状況や動向を注意していく必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	身寄りのない障害者の暮らし等を守るため必要な事業である。		
今後の方向性	身寄りのない障害者の暮らし等を守るため今後も継続して実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり 1-4 「にのみやLife」の提案と発信		
分野別方針	福祉・健康・保健	実施計画事業	保健サービス推進事業(No.12)		
予算等事業名	国民健康保険趣旨普及事業				
目的	病気の早期発見・治療及び、生活習慣病の予防・改善につなげることで、町民の健康管理に役立てる。健康の維持・増進に向けた指導を行う。				
内容	・周知・啓発の実施				
根拠法令・条例等	国民健康保険法				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		複雑多岐に渡る健康保険制度の概要を案内するための基礎資料であり、減少傾向にある被保険者数を勘案し削減の検討は行っているが、取得届出数は変わらないため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		取得(検討を含む)者は日々いる中で、口頭説明やホームページ掲載のみでは制度が複雑多岐に渡るため支障及びサービス低下をきたすおそれがある。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 今後も、制度案内は分かりやすい表現を取り入れながら幅広い周知・啓発に努めていく必要がある。				

総合評価

実績	「国民健康保険のしおり」の作成。 毎年、7月上旬発送の当初賦課決定通知時に同封し、被保険者世帯へ制度の周知を行う。また、窓口で随時加入者等への案内・説明時に使用・配布する。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	健康診査受診率の動向				
中期(28年度)目標値	6,300件			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	被保険者世帯数及び窓口配布等	
	5,800件				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		388	388				
財源内訳	一般財源	388	388				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 複雑多岐に渡る国民健康保険制度をわかりやすく解説することで、保険税の計算方法やその他の関連事項を確認・対応できるため、理解・関心を深めていただくためにも必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 運営は保険者のため、主体となる必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 保険税や保険給付等で不利益が生じないように制度の周知徹底に努めているため、未申告者の減少や分納相談、限度額認定証の申請、医療費抑制や資格の適正化などにつながっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 制度等の見直しが行われても、版下があるため自在の設定が可能であり、規格・単価をかえることなくしおり(案内)を作成することができた。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 国民健康保険制度の安定運営のために、今後も理解を深めていただけるよう周知・啓発に努め、引き続き事業を実施する。	
今後の方針 (課題・意見等を簡条書き)	事例や表現は、身近でわかりやすいものとし、周知・啓発を図っていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	制度の周知として、全被保険者に対して同様に行えるため。		
今後の方向性	わかりやすい表現で、周知・啓発していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり 1-4 「このみやLife」の提案と発信
分野別方針	福祉・健康・保健	実施計画事業	保健サービス推進事業(No.12)
予算等事業名	国民健康保険税収納率向上対策事業		
目的	病気の早期発見・治療及び、生活習慣病の予防・改善につなげることで、町民の健康管理に役立てる。健康の維持・増進に向けた指導を行う。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・財産調査 ・訪問徴収 		
根拠法令・条例等	国民健康保険法		
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施 <input type="checkbox"/> 一部委託あり <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他		

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>			③ 未実施
②、③に対する理由	体制面により、優先度の高い事業から実施していることから収納対策においては一部に遅れが生じているため。		

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	嘱託員報酬等であるため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	各種税・料主管課と情報の共有・連携を進め、滞納整理の更なる技術習得に努める。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 平成30年度からの事務処理標準化の検討が始まり、滞納整理(収納強化)への目標が示されるため、職員の更なるスキルアップを目指し収納率向上を図る。	

総合評価

実績	平成28年度徴収員訪問 差し押さえ・交付要求 税務職員研修		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	健康診査受診率の動向		
中期(28年度)目標値	539件		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	396件		
			対前年度比

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,614	1,481				
財源内訳	一般財源	1,614	1,481				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 徴収(収納)対策の一環として、訪問徴収は町単独事業として実施する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 安定した制度運営のためには、保険税の収納が必須のため、主体として実施していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 滞納初期の未納者へ戸別訪問や電話勧奨を積極的に行うことで、実態把握に努め納税意欲の向上・相談体制の周知など、原因分析を図りアプローチを図れる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 町税他、各種税・料主管課とも情報の共有を図り、徴収業務の円滑運営を進めている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 定期的に訪問することで状況確認することができるほか、納税意欲を欠くことなく分納を継続していただければ必要に応じては臨機応変な対応が取れるため、引き続き事業を実施する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	収納率向上に向け、今後も関係各課と連携していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止			
理由	滞納者には、継続した訪問連絡が必要。		
今後の方向性	収納率向上のためには、納税意欲を高め自主納付していただけるよう対応していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり 1-4 「にのみやLife」の提案と発信		
分野別方針	福祉・健康・保健	実施計画事業	保健サービス推進事業(No.12)		
予算等事業名	国民健康保険運営事務事業				
目的	病気の早期発見・治療及び、生活習慣病の予防・改善につなげることで、町民の健康管理に役立てる。健康の維持・増進に向けた指導を行う。				
内容	・運営事務				
根拠法令・条例等	国民健康保険法				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由	業務は計画どおりに進捗しているが、資金不足となってしまうため。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ② 削減は困難		
理由	医療費の増加、被保険者証の更新があるため。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ② 効率化は困難		
理由	国民健康保険法に則った業務の遂行に必要なものであり、システムの共同化による費用の削減には努めているため。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 医療費適正化を図りながら、税率の見直し検討を重ね、安定した財政運営に努める。				

総合評価

実績	保険証の更新(2年に1回) 診療報酬明細書の点検業務				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	健康診査受診率の動向				
中期(28年度)目標値	141,757件			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	医療費の適切な執行を図るために実施するレセプト点検件数	
	137,630件				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		9,663	8,253				
財源内訳	一般財源	9,663	8,253				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 国・県の指導助言を受けながら、町が保険税等を財源に実施する事業である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 運営の主体となる保険者として町が、経営の一切の事務を行うことになっているため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 計画どおり事業を完了した。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 共同調達を行うなどして費用の削減に努めている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 今後も必要に応じ、見直し・検討を重ねながら安定した財政運営を旨とす。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	医療保障のみならず、充実した保健事業を展開し、被保険者の健康の保持・増進に努める。 保険料の見直しを行いながら安定した財政運営に努める。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	限られた財源の中で、独立した運営を維持していく。		
今後の方向性	医療保障のみならず、充実した保健事業を展開し、被保険者の健康の保持・増進に努める。 保健税の見直しを行いながら安定した財政運営に努める。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり 1-4 「このみやLife」の提案と発信		
分野別方針	福祉・健康・保健	実施計画事業	保健サービス推進事業(No.12)		
予算等事業名	国民健康保険税賦課徴収事業				
目的	病気の早期発見・治療及び、生活習慣病の予防・改善につなげることで、町民の健康管理に役立てる。健康の維持・増進に向けた指導を行う。				
内容	・賦課徴収				
根拠法令・条例等	国民健康保険法、地方税法				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		納付機会の確保(利便性)からコンビニ収納を実施しているが、口座振替の推奨は継続的に行い手数料の削減に努めていく。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		国民健康保険法に則った業務の遂行に必要なものであり、システムの共同化による費用の削減には努めているため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 医療費の動向を的確に捉えながら適正化を図り、安定した財政運営のために税率の見直し検討に努める。				

総合評価

実績	現年分保険税収入金額				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	健康診査受診率の動向				
中期(28年度)目標値	93.00%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値(速報値)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	当該年度(現年)の収納率	
	90.67%				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,203	2,700				
財源内訳	一般財源	3,203	2,700				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 国・県の指導助言を受けながら、町が保険税等を財源に実施する事業である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 制度の安定した運営には保健税の徴収が必須となるため、主体となって実施していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 計画どおり事業を完了した。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 共同調達を行うなどして費用の削減に努めている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 今後も医療費の動向を的確に捉えながら、保険税率の適正な見直しに努める。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	地方税放蕩の改正に伴う条例の一部改正を滞りなく行う。 口座振替の推奨を行う。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	適正な運用ができるよう必要に応じ見直し・検討を加える。		
今後の方向性	運営の主体が県と市町村とされることから事務処理統一基準が設けられるが、保険税の賦課・徴収方法等は変わらず各市町村で行うため、健全な運営ができるようにしていく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり 1-4 「にのみやLife」の提案と発信		
分野別方針	福祉・健康・保健	実施計画事業	保健サービス推進事業(No.12)		
予算等事業名	後期高齢者医療保険運営事業				
目的	病気の早期発見・治療及び、生活習慣病の予防・改善につなげることで、町民の健康管理に役立てる。健康の維持・増進に向けた指導を行う。				
内容	・運営事務				
根拠法令・条例等	高齢者の医療の確保に関する法律				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		年々、被保険者数が増加しているため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		高齢者の医療の確保に関する法律に則った業務の遂行に必要なものであり、既に広域化により費用の削減には努めているため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 今後も広域連合と連携を図りながら、安定した事業運営に努める。				

総合評価

実績	診療報酬明細書の点検業務				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	健康診査受診率の動向				
中期(28年度)目標値	127,621件			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	医療費の適正な執行を図るために実施するレセプト点検	
	130,250件				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,981	1,975				
財源内訳	一般財源	1,981	1,975				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 後期高齢者医療広域連合を設置することで、市町村の枠を超えて連携・補完でき、広域的に処理されることで住民サービスの向上・事務の効率化を進めることができる事業である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町民にとって身近な町が窓口となる必要がある事業である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 計画どおり事業を完了した。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 広域化により、費用の削減につながっている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 今後も広域連合と協力して、安定した事業運営を図る。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	医療保障のみならず、充実した保健事業を展開し、被保険者の健康の保持・増進に努める。 2年に1度保険料が見直され、安定した財政運営が図られている。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	今後も広域連合と協力して安定した事業運営を図る。		
今後の方向性	定着しつつある制度の運用を周知しながら、安定した財政運営を図っていく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり 1-4 「にのみやLife」の提案と発信		
分野別方針	福祉・健康・保健	実施計画事業	保健サービス推進事業(No.12)		
予算等事業名	後期高齢者医療保険料徴収事業				
目的	病気の早期発見・治療及び、生活習慣病の予防・改善につなげることで、町民の健康管理に役立てる。健康の維持・増進に向けた指導を行う。				
内容	・徴収				
根拠法令・条例等	高齢者の医療の確保に関する法律				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		年々、被保険者数が増加しているため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		高齢者の医療の確保に関する法律に則った業務の遂行に必要なものであり、既に広域化により費用の削減には努めているため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 今後も広域連合と連携を図りながら、安定した事業運営に努める。				

総合評価

実績	現年分保険税収入金額				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	健康診査受診率の動向				
中期(28年度)目標値	99.29%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値(速報値)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	当該年度(現年)の収納率	
	96.74%				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		402,974	401,090				
財源内訳	一般財源	402,974	401,090				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 後期高齢者医療広域連合を設置することで、市町村の枠を超えて連携・補完でき、広域的に処理されることで住民サービスの向上・事務の効率化を進めることができる事業である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町民にとって身近な町が窓口となる必要がある事業である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 計画どおり事業を完了した。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 町税他、各種税・料主管課とも情報の共有を図り、徴収業務の円滑運営を進めている。また、共同調達を行う等して費用の削減に努めている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 今後も広域連合と協力して、安定した事業運営を図れるよう努める。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	口座振替の勧奨。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	広域連合と協力して安定した事務運営を図っていく。		
今後の方向性	制度の理解度を深め、徴収方法(口座振替等)を周知啓発していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-4 「このみやLife」の提案と発信		
分野別方針	土地利用・都市基盤	実施計画事業	同居・近居推進事業(No.40)		
予算等事業名	同居・近居推進事業				
目的	子、孫世帯の同居・近居を推進し、高齢者が安心して地域で生活することが出来る様に支援する。				
内容	・子世帯と親世帯との同居若しくは近居を推進するために助成する				
根拠法令・条例等	二宮町同居・近居推進事業補助金実施要綱				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		補助金の利用状況等に応じて、事業の見直しを検討。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		補助金の利用状況等に応じて、事業の見直しを検討。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 他に家に関する補助金があり、今後どのように運用したらよいのか検討が必要。				

総合評価

実績	3件(同居近居のための住宅取得2件、同居のための住宅改修1件)				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	総合戦略における重要業績評価指標				
中期(28年度)目標値	16件			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	予算件数	
	1300				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,400	1,300				
財源内訳	一般財源	1,400	1,300				
	国庫支出金	0	0				
	県支出金	0	0				
	その他	0	0				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 同居に関わる補助事業であるため公費を投入することは妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町は同居を推進する立場にいるため、主体的に実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 目標件数には届かないものの実績があるため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 同居に関わる補助事業であるため費用負担は必須である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 実績を上げるために、広報活動などのPRを行い、事業の周知を行いながら推進する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	住宅改修等同居に関わる補助事業があるため、統合・住み分けを検討する必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	他に家に関する補助金があり、今後どのように運用したらよいのか検討が必要。		
今後の方向性	他の補助事業と統合・住み分けを検討する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 福祉保険課			
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-4 「このみやLife」の提案と発信		
分野別方針	自治体経営		実施計画事業	平和推進事業(No.84)		
予算等事業名	平和祈念事業					
目的	平和に関する事業を実施することにより、平和に対する町民一人ひとりの意識高揚を図る。					
内容	・記念祭の開催					
根拠法令 ・条例等	-					
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		必要最低限の費用に抑えて実施している。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		事業の継続により町民の平和祈念への意識啓発が図られている。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 平和祈念の意識啓発や戦没者のご冥福を祈るため、今後も継続して実施する。				

総合評価

実績					
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(28年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費							
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 平和を祈念し、戦没者のご冥福を祈るための事業であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 遺族会を含む町民全体に平和祈念の意識啓発を行うため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 平和記念祭の広報、実施により平和祈念への意識啓発が図られている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 必要最低限の費用に抑えて実施している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 事業の継続により町民の平和祈念への意識啓発が図られている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	平和祈念の意識啓発や戦没者のご冥福を祈るため、今後も継続して実施する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	町の責務として戦没者の追悼と平和に対する意識高揚を継続して図っていく必要がある。		
今後の方向性	同様に継続して実施する。		